

木野

KINO PRESS.
KYOTO SEIKA UNIVERSITY

通信

第84号

2025 July

特集

京都精華大学が描く、
10年後のありたい姿

卒業生インタビュー

金馬明里さん(デザイン学部卒)

山口馬木也さん(美術学部卒)

特集

京都精華大学が描く、 10年後のありたい姿

京都精華大学は、今後10年間にめざす大学像を「VISION 2034 SEIKA」として発表しました。

「表現の大学」をはじめ5つの項目を掲げ、前半5年間（2025～2029）の具体的な取り組みを第一次中期計画にまとめています。セイカならではの教育とは何か。10年後にどんな大学でありたいか。2024年末に就任した吉村和真理事長に聞きました。

最大の危機からの再建

——京都精華大学の10年後のビジョンをうかがう前に、これまでの10年を振り返って総括をお願いします。

私は2015年に理事になり、2018年度から2024年度までの7年間の前ビジョンや中期経営計画にも携わってきました。その計画の始まる前後が、実はセイカの歴史のなかで一番の危機だったんです。2016年度に学生数が定員の7割を切り、経営も教学内容も立て直しが急務になりました。

そこで2021年度からポピュラーカルチャー学部を、より時代に求められる学びを入れてメディア表現学部へ改組し、人文学部はよりグローバルな方向をめざして国際文化学部に変更しました。ところが、あいにくコロナ禍に重なり、留学や海外渡航が難しくなりました。

——改革はしたが、課題も残ったと。最大の危機は乗り切れたのでしょうか。

学生数はV字回復したんですよ。定員の9割前後に戻った。これは早くから留学生を積極的に受け入れたのが大きい。2019年度入試から総合型選抜の国籍枠を取り払い、国内の学生も留学生も同じ試験で選抜するようにしました。2020年度入試からは、海外からも受験できるオンライン試験を導入しました。すると、とくに海外から注目されているマンガ学部を中心に、留学生がたくさん来てくれる下地ができた。今では学生全体の3割が留学生。他の芸術系大学と比べても圧倒的に多く、先進的だと言えます。

言葉の壁や生活文化の壁もありますが、今や入試合格者の上位にも留学生が増え、国籍を問わずにやることの利点がたくさん見えてきました。

——通信制開設で施設も新設を？

それが大きな柱の2本目です。まず今、5号館という校舎の建て替えを進めていて、そこに通信教育のための施設・設備を入れる計画です。5号館には現在、芸術学部の日本画専攻などが入っているんですが、別の建物へ移し、より魅力的な施設・設備を用意しています。

——最後に、セイカはこういう大学でありたいという方向性をお聞かせください。

2034年までの10年は、まさに大学の永続性が問われる時代だと思います。なんとか潰れないようにという後ろ向き経営ではなく、むしろ「今こそ京都精華大学」という発想で攻めたい。

今の時代はセイカが開学した1968年の社会状況に似ていると思います。国際間の戦争や経済格差が広がり、思想的混迷が深まり、いろいろな対立が生まれている。どうすれば平和裏に互いのコミュニケーションを取っていくか。そのためには、表現とリベラルアーツ、そして世界と地域をつなぐことが必要になる。その3つの要素が新ビジョンに込められています。危機の時代にこそ求められるのが京都精華大学であり、今後もそうありたいと強く思っています。

吉村 和真

京都精華大学 理事長

熊本大学大学院文学研究科文学専攻修了、立命館大学大学院文学研究科博士後期課程単位取得退学。マンガ学部教務主任、京都精華大学国際マンガ研究センター長、マンガ学部長を歴任。常務理事、評議員、専務理事を経て、2024年12月から現職。専門は思想史・マンガ研究。



「表現の大学」の強みを生かす教育とは

——前ビジョンにあった「グローバルな大学」の項目が、新ビジョンでは「京都と世界をつなぐ大学」に変わりました。

私たちの大学は学問と芸術の両面から人類社会に尽くすとうたっており、人文社会学が骨格をなす大きな柱であることは変わらない。なので、国際文化学部から人文学部へ名称を戻すわけですが、とくに「国際」の看板で見えにくくなっていった京都をはじめとするローカルな視点。これをグローバルにつなげていく「ローカル」な学びを強調したかった。

たとえば、学生の絵画や音楽や写真で沿線を盛り上げるプロジェクトと一緒に取り組む叡山電鉄さん、また京都市や京都府などの自治体。多くの連携先が地域

にあります。国際的に活躍すること、地元へ貢献することは決して遠くない。ローカルな活動で培った知見が、海外で生きることもあるわけです。

地域が海外かは結果論で、セイカの理念は人類史にどう貢献するかにあります。人間そのものを学びリベラルアーツ、教養の部分を厚くすることでデザインや芸術などの表現技法やそれぞれの専門性を支える。そこが専門学校や芸術大学とは違う、総合大学である意味ですね。

——引き続き掲げる「不断の教育改革」とは、具体的には？

大きな柱が2本あり、一つは通信教育の展開です。コロナ禍をきっかけにオン

もう一つはマンガの通信教育。これは2030年度の開設をめざしています。マンガ学部の留学生が多いと言いましたが、地理的・経済的・言語的な壁を越えてマンガを学ぶには通信教育がとても有効です。実は、マンガの実技教育の一部はオンラインの方がやりやすい側面もあることがわかってきました。

セイカがめざす、これからの大学像 VISION 2034 SEIKA

2025年4月、京都精華大学は、10年後の2034年に京都精華大学のありたい姿を展望した長期ビジョン「VISION 2034 SEIKA」と、その実現に向けて、2025年度～2029年度に取り組む「第一次中期計画(2025-2029)」を定めました。ビジョンでは、建学の理念である「人間尊重」「自由自治」を基盤に、「学問と芸術で世界に貢献する人間の育成」をめざし、5つの軸を掲げています。また、第一次中期計画では、「教育研究」「管理経営」「財務」の3領域で、15項目の目標を設定し、具体的な取り組みを通じて、ビジョンの実現をめざしていきます。

長期ビジョン				
表現の大学	リベラルアーツの大学	京都と世界をつなぐ大学	不断の教育改革	永続的な大学づくり
学問と芸術で世界に貢献する人間を育成するために、「表現の大学」をめざします。自己の思想や考えをかたちにし、他者に投げかけることで、自己と他者に変革をもたらす、よりよい未来を創造するための表現活動を行う人間を育成します。	教育の基本理念に「自由自治」を掲げる大学として、「リベラルアーツの大学」をめざします。リベラルアーツは、批判的思考を持ちつつ自己を確立し、他者と協力して社会を形成していくための大切な要素です。	京都に立脚し、世界に開かれた大学をめざします。地域と連携したカリキュラムのほか、国際交流プログラムや留学制度を通じ、多様な国・地域からの学生を受け入れ、地域と世界をつなぐことで広く社会に貢献します。	大学のあらゆる活動は学生の成長のためにさざげられます。人格的平等のもと、学生のみならず教職員が率先して人間や社会について考え、より良い教育の内容と手法を追求し続けます。	開学以来、半世紀で3万人以上の卒業生を輩出してきた私立大学として、これまでの実績とこれからの長期的展望に基づき、永続的な経営基盤を確立します。
教 学	教 学	教 学	管理経営	管理経営

第一次中期計画(2025-2029)

10年後に向けた長期目標「VISION 2034 SEIKA」を達成するために、5年・2期の中期計画を、教育研究・管理経営・財務の3分野で策定します。

教育研究

- ① 学部・研究科の教育の質向上
- ② 通信教育課程の新設と運営
- ◆ 情報分野(工学系)の通信教育課程を2028年に開設予定
- ◆ マンガ分野の通信教育課程の検討
- ③ 多様な学生に向けた支援体制の強化
- ◆ 奨学金制度やピアサポートプログラムの構想
- ④ 教育の質を高める社会連携の推進
- ◆ 卒業生とのパートナーシップ制度の構築
- ⑤ 入学制度の充実
- ⑥ キャリア支援体制の強化
- ◆ 学部の専門性と紐づいたキャリア形成プログラムの整備
- ⑦ 研究・創作活動の支援

管理運営

- ⑧ 新たな施設・設備計画の立案と遂行
- ◆ 5号館の建て替え、春秋館のリノベーション
- ⑨ ITやAIの活用による業務の効率化
- ◆ 各部署のデジタルシステムの見直し
- ⑩ 人材育成と人事マネジメントの整備
- ⑪ 戦略的な広報活動の強化
- ◆ 2028年度の大学設立60周年を見据えた、大学ブランドイメージの向上
- ⑫ 内部統制システムの実質化

財務

- ⑬ 持続的な収入の確保
- ⑭ 計画的な支出の管理
- ⑮ 安定的な収入超過の維持



「VISION 2024 SEIKA」の7年間を振り返る

2018年に取り組みをスタートしたVISION 2024 SEIKA。

京都精華大学は、表現の力を信じて、7年間の変革に取り組んできました。その足跡を年度で振り返ります。

2018

日本語学修支援室
(現：言語学習支援室)の設置
増加する留学生に対応するため日本語学修支援室を開設。国際教育の活発化を図り、アフリカ・アジアの大学との連携を強化するなど、世界各地の教育機関と協定を締結。

2020

「SEIKA AWARD」を開始
高校生の自由な創作活動の応援と新しい才能の発見を目的とし、創作作品コンペティションをスタート。

京都精華大学アフリカ・アジア現代文化研究センター設置
アフリカとアジアまた諸地域とのつながりを生み出す、新しい研究拠点の創設。

2021

「京都精華大学SDGs宣言」の発表
すべての人の違いを尊重しながら、持続可能な社会の構築に貢献するために、全学的にSDGsの実現に向けて取り組もうと発表。
学部編成の大規模教育改革
国際文化学部、メディア表現学部の新2学部と、人間環境デザインプログラムをスタート。共通教育科目もあわせて再編した。
※国際文化学部は2026年度に人文学部に名称変更予定



2022

社会実践力育成プログラムの実施
全学共通教育科目のなかに「社会実践力育成プログラム」を立ち上げ、地域や企業等との連携プログラムを50近く開設した。
明窓館の竣工
講演会やイベントに使用できる大ホールや、520㎡の展示面積を有する大型ギャラリー、学内での国際交流を促進するグローバルラウンジ、多国籍料理を提供するグローバルカフェなどを併設する京都精華大学の中心的な施設が完成。学生たちが異文化に触れ、楽しみながら新しい価値観を学べる施設になった。



2023

「キャリアパーク」を開設
2022年に竣工した明窓館のなかに、いつでも自由かつ気軽に進路の情報やアドバイスに接することができる新しいキャリア支援の拠点が誕生した。
京都精華大学芸術表現助成制度の設置
本学の研究活動の活性化につながるような展覧会、上映会、パフォーマンス、キュレーションなどの芸術表現活動への参加に対して行う助成制度を新設。

2024

産官学民の連携によりマンガ・アニメーション・ゲームのデジタルアーカイブを推進
文化庁、京都市、精華町(京都府相楽郡)などと連携し、マンガ・アニメーション・ゲームのデジタルアーカイブ事業を推進。原画を保存・管理するだけでなく、地域活性化に向けた可能性を探る。



できないから惹かれた演技の世界。
これからも役づくりを追求し続ける。



ものづくりに携わる喜びが原動力。
人に寄り添うデザインをめざして。

山口 馬木也さん
Yamaguchi Makiya

俳優

美術学部造形学科洋画専門分野
1997年卒業



卒業生インタビュー

独自の道を歩む京都
現在の活動や今後の夢、

精華大学の卒業生に、
セイカの思い出を伺いました。



金馬 明里さん
Komma Akari

キヤノン株式会社
ユーザビリティデザイン担当

デザイン学部プロダクトデザイン学科
プロダクトコミュニケーションデザインコース
2014年卒業

セイカの思い出

セイカに入学した理由は、「自由で面白そうな大学」と感じたから。京都で暮らすことにも憧れがありました。



単館上映から始まった自主制作映画でありながら、興行収入10億円を超える大ヒット作品となった『侍タイムスリッパ』。主演を務めた山口馬木也さんは、確かな演技力でさまざまな役を演じてきた俳優です。幾多の作品に出演した経験をもつ山口さんですが、「脚本をもらうと未だに胃が痛くなるし、どんな役も毎回難しい」と言います。そもそも、俳優の道を選んだ理由が「全然できなかったから」。20代の頃、何でも器用にこなしていた山口さんにとって、初めて大きな挫折を味わったのが、演技だったのです。「最初は『他人になりきるのには楽しそうだ』と気軽に考えていましたが、やってみるとまったく簡単ではなくて。僕にとっては、用意された他人の台詞を理解することも、そこに気持ちを入れて感情を伝えることも難しかったです。20年を超えてから、役の中に入り込む楽しさを少しずつ体験できるようになってきました」

母校であるセイカの印象は、「変わった人が多い大学」。型にとられない発想をもつ先生や学生に囲まれて、のびのびと学生生活を送ったといいます。「学内には、学生の個性や感性を力強く肯定してくれる空気がありました。おかげで自分に自信がもてるようになりました。また、いろいろな考え方の人と出会った経験は、幅広い役を演じるうえで役立っています」

2024年度の学長表彰で卒業生功労賞を受賞。大学で行われた表彰式にも出席しました。「いただいた賞に見合う何かを大学にお返しできれば良いのですが、今の自分には何もなく……。結局は、自分が思い描く俳優になることをめざして、この道を進んでいくことしかないのだと思っています」

謙虚な人柄と、演技と真摯に向き合う姿勢が、一言一言に表れている山口さん。「今後は、これまでとは異なる取り組み方も試しながら、役をつくるということを突き詰めていきたい」と、未来への展望を語りました。



産業機器を設置する現場を訪問。機器の使い方や使い方に関する課題の抽出などを行う

金馬明里さんは、大手メーカーのキャノンで製品のユーザビリティデザインを担当しています。製品の使いやすさを追求し、外観のデザインを考えるプロダクトデザイナーや開発者たちとチームを組んで開発に取り組んでいます。キャノンが扱う製品は、カメラをはじめ医療機器や半導体など、多岐に渡ります。金馬さんも、これまでにさまざまな製品の誕生に関わってきました。「産業機器など、身近ではない製品の使い勝手は想像しにくいものです。そんなときは、関連分野を学ぶだけでなく、製品が置かれる場所を視察し、働く人に話を聞くなど、あらゆる情報を集め製品の使い方がどうあるべきか考えることを心がけています。使ったことのない製品を手掛ける難しさを感じることもありますが、いろいろな分野のものづくりに携わることがこの仕事の面白いところです」

おもしろいところでは、プロダクトデザイン学科に入学した金馬さん。在学中は、パッケージやエディトリアルなど、多様なデザインを学びました。なかでも夢中になったのは、伝統工芸です。繊細な手仕事に感動し、卒業制作では木桶をテーマに取り組みました。「セイカでの多彩な経験を通して、自分は『何をデザインするのか』ではなく、『人に寄り添うデザイン』という考え方を大切にしたいのだと気づきました」と、当時は振り返ります。

卒業後は下着メーカーに就職し、衣服の研究に携わった金馬さん。転職し、携わる製品が大きく変わった今でも、「前職で人の体や動きを観察・分析したことが、現在の仕事にも役立っている」と力強く語ります。「学生時代の恩師に教わった『手で考える、足で考える』という言葉を今でも大切にしています。デザインは頭で考えるだけではダメ。いろいろな場所に足を運び、たくさんの人と話し、試行錯誤を重ねる姿勢が重要です」

人に寄り添うデザインをめざす金馬さんが、どのような製品を生み出していくのか。今後の活躍が楽しみです。



『侍タイムスリッパ』のヒットをきっかけに、時代劇からテレビドラマまで出演オファーがさらに増加

セイカの思い出

京都の伝統産業を体験する授業で、木桶の工房を訪問。職人さんの高度な技術と、作品の美しさに感銘を受けました。



2025年度役職者・入職教職員、2024年度退職教職員一覧

2024年度をもって退職された教職員のみなさまには、これまでのご活動に深く感謝するとともに、今後のご活躍をお祈りいたします。また、2025年度も多数の教職員が入職されました。新しい方々を迎え、さらなる研究・教育の発展に力を注いでまいります。

2025年度 役職者

学長 澤田 昌人
副学長 森原 規行 三河 かおり
教務部長 吉岡 恵美子
学生部長 田村 有香
入学部長 葉山 勉
国際文化学部長 高橋 伸一
メディア表現学部長 吉川 昌孝
芸術学部長 北野 裕之
デザイン学部長 岸川 謙介
マンガ学部長 下村 浩一
人文学部長 高橋 伸一(兼任)
ポピュラーカルチャー学部長 吉川 昌孝(兼任)
芸術研究科長 小松 敏宏
デザイン研究科長 谷本 尚子
マンガ研究科長 小田 隆
人文学研究科長 前田 茂
理事長 吉村 和真
専務理事 森 貴美
常務理事 片田 克

2025年度 新任教職員

【教員】 国際文化学部 人文学部 新稲 法子 *2024年10月1日から 八木 智生 *2024年10月1日から 矢本 浩司 メディア表現学部 hoehoe ※ 西田 二郎(客員) 阿児 つばさ(助手) 村尾 尚哉(助手) 湯山 理子(助手) 芸術学部 広瀬 菜々 榎本 貴之介(助手) 波賀野 文子(助手) 福岡 梨水(助手) 大学院芸術研究科 井岡 詩子 デザイン学部 ビジュアルデザイン学科 王 怡琴 白井 慧 *2024年10月1日から プロダクトデザイン学科 西川 歩 梶浦 翔太(助手) 脇坂 玲名(助手)	建築学科 ウスビ サコ(客員) 田中 冬子(助手) マンガ学部 倉花 千夏(客員) 若林 和弘(客員) カートゥーンコース 大須賀 健(助手) ストーリーマンガコース 佐々木 真彰(助手) 新世代マンガコース 古川 怜(助手) キャラクターデザインコース 宇野 元智 くろなゆた 佐藤 佑悟 花岡 諒(助手) スズ(助手) アニメーションコース 今井 飛鳥(助手) 共通教育機構 高村 遼 坪田 珠里 ※ 村上 智子 ※特任教員から専任教員へ	【職員】 伊勢本 真理子<教学> 串上 友里恵<学生> 佐竹 美意子<学生> 玉城 良磨<広報> 新倉 知彦<総務> 長谷川 智子<学生> 濱崎 知沙<学生> 樋口 郁子<学生> 山下 茜<京都国際マンガミュージアム> 山村 優子<総務> 〈 〉内は所属グループ
--	---	---

2024年度 退職教職員

【教員】 国際文化学部 稲賀 繁美 末次 智 メディア表現学部 富樫 佳織 イアン コンドリー(客員) 小池 春菜(助手) 朱 芸然(助手) 芸術学部 吉村 敏治 池田 慎之介(助手) 大機 伸悟(助手) 原田 有希(助手) デザイン学部 倉澤 洋輝 呉 越 野村 伸介 小野 明(客員) 石田 恵(助手) 佐藤 絵里(助手) 増田 亮太(助手)	マンガ学部 数井 浩子 佐川 俊彦 遊佐 かずしげ 関根 康正(客員) 河野 萌(助手) 黒田 早香(助手) 田村 優佳(助手) 張 寿榮(助手) 福田 真衣(助手) 吉村 沙耶香(助手) 人文学部 久留島 元 ポピュラーカルチャー学部 堤坂 智之(助手) 大学院芸術研究科 岡田 温司 大学院人文学研究科 和崎 春日(客員) 国際マンガ研究センター イトウ ユウ	【職員】 石田 涼<理事長> 常喜 通子<学生> 添郷 将史<経営企画> 野瀬 瑛里子<入学> 平尾 早悠佳<広報> 光澤 滋美<学生> 森定 肇<経営企画> 山本 佳代<学生> 〈 〉内は所属グループ 【名誉教授】 ウスビ サコ 末次 智 (五十音順)
---	--	--



恵阪 友紀子
人文学部・国際文化学部
(平安文学研究)

ひと息つきたい時には 遊びに来てください

今年の桜は遅咲きでした。花が咲く前に巣立っていく卒業生を見送りました。4月になり、新しい環境に馴染んでいるかな、これまでの卒業生は元気だろうか、そんな感傷に浸る一方、緊張と期待の入り交じった新しい学生を迎えました。一斉に咲き誇り、潔く散り過ぎてゆく桜のように、長い人生のうちの数年間を謳歌し、かけ抜けていくみなさんを見てると、なんだか取り残されたような寂寥感を覚えます。社会に出ると理不尽なことも多くて、自分だけが不幸を背負い込んでいると思ってしまうことも……。そんな時、少し昔を思い出して遊びに来てください。



流溪館R-101 commonsを改装しました

私のお気に入り

『和漢朗詠集』の写本。何百年も受け継がれてきたものをどう残していくか……。



谷口 文和
メディア表現学部 音楽メディア専攻
(音楽学者)

誰も聴いたことがない世界を めざしてイベントを開催

2本のスピーカでは飽き足らず、部屋全体に多数のスピーカーを設置し音響空間をつくり出すイベントを開催。昨年は明窓館ギャラリーTerra-S、今年は明窓館のM-104で、20本のスピーカーを使った展示を行いました。谷口のほか、在学生や谷口ゼミ卒業生が作品を出展。音楽は、まだ誰も聴いたことがない世界を生み出すことができます。その場でしか体験できない空間を聴きに、懐かしい人たちが遊びに来てくれました。この機会に集まった卒業生が代を超えて交流できたことをきっかけに、ゼミのDiscordサーバに歴代の卒業生を招待しており、今も連日にぎわっています。



昨年のプロジェクト展「スピ展-音響空間を展示する」の様子

私のお気に入り

石垣島の鍾乳石。長い年月が生み出す造形。



志萱 晃一
デザイン学部 ビジュアルデザイン学科
(クリエイティブディレクター)

つくるは「本当に苦しく、 でも愉しくもあり」で奮闘中

今年度もビジュアルデザイン学科において「広告プロジェクト授業」という3年生対象の社会発信授業を行っています。新しき広告作法を実現するべくサン・アド公庄先生とコンビで「ユニークなお店を開店させ、そのお店をユニークに広告する」という目標を掲げ、学生と企画を模索中。「広告する」ことをその発信元からデザインしていこうという新しき試みです。学生ならではの面白さと忘れがたい経験を伴う良策をと考えているのですが、なかなか難しく満面の笑顔で苦戦中です。つくることは「本当に苦しく、でも愉しくもあり」の実社会に近い感覚で額に汗して格闘中です。



愉快で朗らかな学生制作チームです

私のお気に入り

「しあわせ感じる」おやつを愛する私。滋賀県は長浜にある「暫(しばらく)」。百円で買える街場の口福な甘味は絶品です。



あの先生元氣かな……？
そう思っている卒業生のみなさんへ、
セイカの教員からのメッセージです。

「心象風景」をキーワードに、教員や卒業生らが多数出展



撮影：高野友実

「Imagined Sceneriesー7つの心象風景をめぐる」展
石原葉（教員）、岸映子（卒業生）、佐川晃司（元教員）、
ジダーノワ・アリーナ（教員）、高原秀平（卒業生）、西村涼（卒業生）、
山本理恵子（非常勤講師）
2024年11月15日（金）～12月21日（土）

11月15日から12月21日まで、ギャラリーTettaではギャラリーの特微的な展示空間を生かし、活躍する本学卒業生及び教員のアーティストを紹介するグループ展「Seika Artist File」の第二弾として「Imagined Sceneriesー7つの心象風景をめぐる」展を開催しました。

本展では、「心象風景」をキーワードに、芸術学部教員の石原葉、人文学部卒業生の岸映子、芸術学部元教員の佐川晃司、メディア表現学部教員のジダーノワ・アリーナ、芸術学部卒業生の高原秀平、西村涼、芸術学部非常勤講師の山本理恵子の7名が紹介されました。各作家たちの制作手法や作品のコンセプトはさまざまですが、自身の心に浮かんだ景色や思考、記憶をとある風景として表出させている点が共通しています。作家たちがどのような世界と自身との関係性を意識、思考し、日々考察を続けているのか、各作家が紡ぎだす「心象風景」を通して、展覧会が新たな視点や価値観と出会う場となるよう構成されました。

学内外から訪れた鑑賞者には、ゆるやかに7つに分かれた展示空間を順にめぐりながら、洋画、日本画、版画、陶芸、映像など多様なメディアで構成された各作家の「心象風景」を眺めるとともに、それぞれが重なり合う風景もお楽しみいただきました。

約1,000点を超える作品や論文を展示した卒業・修了発表展を開催



「京都精華大学展2025ー卒業・修了発表展ー」を開催しました。学生たちがこれまで使用してきた教室や体育館など、約20万㎡の広いキャンパス全域を展示会場に、学部・大学院合わせて1000名以上の作品や論文を展示・発表しました。2021年に開設した国際文化学部、メディア表現学部は、今年はいじめて卒業生たちが作品や研究成果を発表。会期中はたくさんの方が訪れ、キャンパスは大いににぎわいました。



的野哲子「_処についてー」（芸術研究科）

「京都精華大学展2025ー卒業・修了発表展ー」
2025年2月12日（水）～16日（日）

学長賞・理事長賞の受賞作品

2	1
4	3
6	5

1.「静けさのなかに」

北村友海さん（芸術学部日本画専攻）

2.「無題2024」

女屋玲雄さん（マンガ学部ストーリーマンガコース）

3.「アメリカにおける中等教育における課外活動と大学進学への影響に関する研究ーカリフォルニア州の事例より」

雑喉萌さん（国際文化学部グローバルスタディーズ学科）

4.「F×SOAP」

竹下愛華さん（デザイン学部ライフクリエイションコース）

5.「星を耕すものたちーPlowing a Planetー」

内田柊さん、川崎蒼生さん、西本丈之助さん、吉岡航汰さん（メディア表現学部メディア情報専攻）

6.「あれもこれもいるー!!」

三木梨々花さん（芸術研究科）

◆学長賞選定理由◆ 芸術学部北村友海さんの作品は大きな迫力のある画面で、ていねいに描き込まれている。背景の森では何かが蠢いているようにも見える。屋久島における生と死が織りなす永遠の営みをありのままに捉えようと、精神を張りつめて写生した気配が伝わり、画家の胆力と気力に感動した。マンガ学部女屋玲雄さんの作品は短い作品にも関わらず、深い世界観に取り組む志の高さを感じた。絵の上手さとコマ割りの巧さのみならず、ストーリーにくつものひねりを盛り込み、物語の中心人物も変化するなど、展開の妙に舌を巻いた。マンガ表現が持つ豊かな可能性を感じた。国際

文化学部雑喉萌さんの論文は長期フィールドワークでのインタビュリーや文献資料の渉猟によって、仮説を綿密に検証し説得力のある結論を導き出した点を高く評価した。さらに自身の立論の弱点も客観的に把握して指摘するなど、誠実に成熟した論考を展開している点も好感が持てた。

（学長 澤田昌人）

◆理事長賞選定理由◆ デザイン学部竹下愛華さんの作品は目に鮮やかで触って楽しく、生き物や環境問題への興味を喚起する。見事にデザイン思考を体現した出来映えに感服した。細部へのこだわりがリアリティを宿し、カエルたちの歓喜の歌が今にも聞こえてきそう。メディア表現学部内田柊さん、川崎蒼生さん、西本丈之助さん、吉岡航汰さんによる作品は確かな理論と丹念な調査に基づき、豊かなアイデアと先端のテクノロジーを駆使して、社会課題解決に取り組む。芸術研究科三木梨々花さんの作品は純粋ゆえに恐ろしい子どもたちの「野生」が、芸術活動を支える人間の「本性」に通じることを実感した。表現内容と素材選びの組み合わせも絶妙その表情や身振りを見つめているうちに強く心が揺さぶられた。

（理事長 吉村和真）

マンガの過去・現在・未来を語る：ちばてつや氏×養老孟司氏 特別対談



「ちばてつや×養老孟司
ミュージアム発・マンガの未来へ」
2025年4月13日（日）

2006年に京都精華大学と京都市が共同で設立した「京都国際マンガミュージアム」は2026年に、開館20周年を迎えます。その記念企画として、2025年4月、マンガ家・ちばてつや氏と名誉館長・養老孟司氏による対談講演会が開催されました。戦後80年という節目に、長年日本文化を支えてきたお二人が、満州引き揚げや戦後の食糧難といった記憶からマンガ文化の役割と今後の可能性まで、多岐にわたるテーマを語りました。ちば氏は、自身の経験をもとに描いた作品『家路194512003』をはじめ、同様の体験を持つマンガ家たちの記録活動の重要性を紹介。養老氏は、日本

の公的機関によるアーカイブ体制の弱さを指摘し、文化を守る意識の重要性を訴えました。

質疑応答では「読者の心を動かす作品のつくり方」や「AIとマンガ」などの問いが寄せられました。ちば氏は、人の心をつく作品は最終的には人間にしかつくれないとし、創作の自由さを大切にしたいと語りました。養老氏は、現実と仮想の違いを見極める力の必要性を説き、体験に根ざした表現の価値を強調しました。お二人による多角的な視点から展開された対話は、文化資源としてのマンガの価値とその保存・発信の意義を浮き彫りにし、未来への希望を感じさせる貴重な時間となりました。

貸借対照表

(単位:円)

	科 目	本年度末	前年度末	増 減
資 産 の 部	固定資産	26,776,739,431	26,275,768,460	500,970,971
	有形固定資産	18,287,703,944	18,276,554,439	11,149,505
	土地	4,214,991,704	4,214,991,704	0
	建物	11,660,990,297	11,684,401,516	△ 23,411,219
	構築物	109,422,769	126,826,988	△ 17,404,219
	教育研究用機器備品	1,064,036,045	1,006,190,118	57,845,927
	管理用機器備品	50,161,411	57,668,082	△ 7,506,671
	図書	1,187,800,479	1,185,686,444	2,114,035
	車両	301,239	789,587	△ 488,348
	特定資産	8,338,588,125	7,857,604,290	480,983,835
	第2号基本金引当特定資産	598,118,000	100,000,000	498,118,000
	第3号基本金引当特定資産	150,000,000	150,000,000	0
	退職給付引当特定資産	1,359,536,116	1,361,935,116	△ 2,399,000
	減価償却引当特定資産	6,230,934,009	6,245,669,174	△ 14,735,165
	その他の固定資産	150,447,362	141,609,731	8,837,631
	電話加入権	3,633,424	3,633,424	0
	ソフトウェア	28,636,767	9,106,394	19,530,373
	長期貸付金	113,431,331	124,124,073	△ 10,692,742
	保証金	4,745,840	4,745,840	0
	流動資産	5,778,597,648	5,791,606,218	△ 13,008,570
現金預金	5,629,390,485	5,523,756,345	5,634,140	
未収入金	169,378,358	181,411,636	△ 12,033,278	
貯蔵品	21,433,945	10,879,994	10,553,951	
短期貸付金	29,004,120	29,383,120	△ 379,000	
立替金	9,859,253	19,166,946	△ 9,307,693	
前払金	18,760,622	24,159,963	△ 5,399,341	
預金	770,865	2,848,214	△ 2,077,349	
資産の部合計	32,555,337,079	32,067,374,678	487,962,401	

2025年度予算について

2025年度支出予算においては、経常的な支出予算に加え、5号館建て替え計画にともない実施する春秋館改修工事や、グラウンド仮設校舎に設置するAV機器やネットワーク機器に要する費用を計上しました。また、当年度から順次学内各所のエレベーター更新に着手するほか、前年度に引き続き空調設備やネットワーク機器の更新を計画しているため、これらのキャンパス整備のための予算を資金収支予算、事業活動収支予算の各目目に計上しました。その他、2025年度事業計画における重点項目に関わる予算を特別事業計画予算として編成しました。一方、収入予算においては、学生数の微減により、学生生徒等納付金収入が前年度決算から比べて9千万円の減収となるを見込んでいます。上記の結果、2025年度の事業活動収支（当年度収支差額）は基本財産取得に関わる基本金組入が多くなるため14億9千万円の支出超過を見込みますが、基本金組入前の収支は収入超過を維持する計画です。

事業活動収支予算書

(単位:円)

		科 目	金 額	
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	5,827,023,000	
		手数料	79,800,000	
		寄付金	18,640,000	
		經常費等補助金	767,150,000	
		付随事業収入	383,082,000	
	事業活動支出の部	雑収入	133,252,000	
		教育活動収入計	7,208,947,000	
		人件費	3,620,184,000	
		教育研究経費	2,752,299,000	
		管理経費	756,039,000	
教育活動外収支	事業活動収入の部	教育活動支出計	7,128,522,000	
		教育活動収支差額	80,425,000	
	事業活動支出の部	受取利息・配当金	92,447,000	
		教育活動外収入計	92,447,000	
	事業活動支出の部	借入金等利息	13,453,000	
		教育活動外支出計	13,453,000	
	特別収支	事業活動収入の部	教育活動外収支差額	78,994,000
			經常収支差額	159,419,000
			資産売却差額	0
		事業活動支出の部	その他の特別収入	125,168,000
特別収入計			125,168,000	
資産処分差額			8,000,000	
事業活動支出の部		特別支出計	8,000,000	
		特別収支差額	117,168,000	
		(予備費)	10,000,000	
基本金組入前当年度収支差額		266,587,000		
基本金組入額合計		△ 1,755,291,000		
当年度収支差額		△ 1,488,704,000		
前年度繰越収支差額		△ 5,487,939,830		
翌年度繰越収支差額		△ 6,976,643,830		
(参考)				
事業活動収入計		7,426,562,000		
事業活動支出計		7,159,975,000		

(単位:円)

	科 目	本年度末	前年度末	増 減
負債の部	固定負債	3,436,986,297	3,524,780,432	△ 87,794,135
	長期借入金	1,900,639,000	2,132,097,000	△ 231,458,000
	長期未払金	127,038,615	0	127,038,615
	退職給与引当金	1,409,308,682	1,392,683,432	16,625,250
	流動負債	1,331,113,856	1,327,818,740	3,295,116
	短期借入金	231,458,000	244,458,000	△ 13,000,000
	未払金	296,840,312	255,987,125	40,853,187
	前受金	606,340,277	637,528,818	△ 31,188,541
	預り金	196,475,267	189,844,797	6,630,470
	負債の部合計	4,768,100,153	4,852,599,172	△ 84,499,019
純資産の部	基本金	33,275,176,756	32,120,071,514	1,155,105,242
	第1号基本金	32,095,058,756	31,438,071,514	656,987,242
	第2号基本金	598,118,000	100,000,000	498,118,000
	第3号基本金	150,000,000	150,000,000	0
	第4号基本金	432,000,000	432,000,000	0
	繰越収支差額	△ 5,487,939,830	△ 4,905,296,008	△ 582,643,822
	翌年度繰越収支差額	△ 5,487,939,830	△ 4,905,296,008	△ 582,643,822
	純資産の部合計	27,787,236,926	27,214,775,506	572,461,420
	負債及び純資産の部合計	32,555,337,079	32,067,374,678	487,962,401

決算および予算について

学校法人京都精華大学の2024年度決算および、
2025年度予算についてご報告いたします。

2024年度決算について

2024年度の事業活動収入は前年度から6千万円増加し、75億9千万円でした。このうち学生納付金は78.0%を占めています。事業活動支出（人件費・経費等）は70億2千万円で、当年度の基本金組入前収支差額は5億7千万円の収入超過となりました。また、基本財産取得に関わる金額を示す基本金組入額は11億6千万円となりました。当年度には、5号館建て替え準備にともなうグラウンド仮設校舎の建設に係る準備工事費用をはじめ、老朽化した空調設備の更新、照明のLED化、および防犯対策も兼ねたトイレリニューアル等に要した費用を施設関係支出として支出しました。また、より快適な学内ネットワーク環境をめざした機器更新費用や、経常的な備品の更新等に要する費用を設備関係支出として支出しました。これら施設関係支出や設備関係支出等を第1号基本金として組み入れています。これらの結果、基本金組入後の翌年度繰越収支差額は支出超過額が54億9千万円に増加しました。

支払資金（現金・預金）は前年度から微増の55億3千万円となりました。法人の資産全体としては4億9千万円の増加です。一方、負債については借入金の返済等により8千万円減少しました。これらにより、純資産は5億7千万円の増加となり、純資産構成比率は0.5ポイント上昇し、85.4%となりました。

事業活動収支計算書

(単位:円)

		科 目	金 額
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	5,921,337,500
		手数料	70,200,627
		寄付金	20,537,076
		経常費等補助金	774,247,719
		国庫補助金	770,927,596
		地方公共団体補助金	3,320,123
		付随事業収入	517,044,300
	事業活動支出の部	雑収入	181,323,028
		教育活動収入計	7,484,690,250
		人件費	3,591,747,725
		教育研究経費	2,502,619,834
		管理経費	890,476,814
		徴収不能額等	0
		教育活動支出計	6,984,844,373
教育活動外収支	事業活動収入の部	教育活動収支差額	499,845,877
		受取利息・配当金	91,556,130
		その他の教育活動外収入	0
	事業活動支出の部	教育活動外収入計	91,556,130
		借入金等利息	16,410,497
		その他の教育活動外支出	0
		教育活動外支出計	16,410,497
		教育活動外収支差額	75,145,633
		経常収支差額	574,991,510
	特別収支	事業活動収入の部	資産売却差額
その他の特別収入			14,569,380
特別収入計			14,569,380
事業活動支出の部		資産処分差額	16,808,607
		その他の特別支出	290,863
		特別支出計	17,099,470
		特別収支差額	△ 2,530,090
基本金組入前当年度収支差額		572,461,420	
基本金組入額合計		△ 1,155,105,242	
当年度収支差額		△ 582,643,822	
前年度繰越収支差額		△ 4,905,296,008	
翌年度繰越収支差額		△ 5,487,939,830	
(参考)			
事業活動収入計		7,590,815,760	
事業活動支出計		7,018,354,340	

資金収支計算書

(単位:円)

	科 目	金 額
収入の部	学生生徒等納付金収入	5,921,337,500
	手数料収入	70,200,627
	寄付金収入	29,024,090
	補助金収入	775,639,599
	国庫補助金収入	772,319,476
	地方公共団体補助金収入	3,320,123
	資産売却収入	284,141
	付随事業・収益事業収入	517,044,300
	受取利息・配当金収入	91,556,130
	雑収入	181,347,259
	借入金等収入	0
	前受金収入	606,340,277
	その他の収入	1,126,470,555
	資金収入調整勘定	△ 806,838,676
前年度繰越支払資金	5,523,756,345	
収入の部合計	14,036,162,147	
支出の部	人件費支出	3,575,122,475
	教育研究経費支出	1,899,019,199
	管理経費支出	863,916,481
	借入金等利息支出	16,410,497
	借入金等返済支出	244,458,000
	施設関係支出	434,877,523
	設備関係支出	248,845,345
	資産運用支出	1,389,516,000
	その他の支出	275,849,136
	資金支出調整勘定	△ 441,242,994
	翌年度繰越支払資金	5,529,390,485
	支出の部合計	14,036,162,147

京都精華大学ギャラリーTerra-S ※入場無料

- ギャラリーTerra-S前期企画展
「スケッチーズ | 八瀬の石黒さん家から見た世界」
2025年6月27日(金)～8月3日(日)
- 合同陶芸展
2025年8月22日(金)～8月30日(土)
- 「おいでよ、Home (Come over, Home)」
2025年10月3日(金)～10月11日(土)
- 「跡 seki 京都精華大学華道同好会華展」
2025年10月23日(木)～10月25日(土)
- 木野祭2025作品展示会
2025年11月1日(土)～11月2日(日)
- ギャラリーTerra-S後期企画展「タイトル未定」
2025年11月21日(金)～12月20日(土)

〔問い合わせ先〕
京都精華大学ギャラリーTerra-S(明窓館3F)
☎075-702-5263



京都国際マンガミュージアム

- マンガと戦争展2
2025年7月12日(土)～11月25日(火)
- 人気キャラクターの九谷焼絵付け体験 ※事前予約制
2025年8月2日(土)、3日(日)
- 永美太郎イベント ※事前予約制
2025年8月9日(土)
- 荒俣宏館長のおとな妖怪教室 ※事前予約制
2025年8月23日(土)
- 京まふ2025 ※京都国際マンガ・アニメフェア2025
2025年9月20日(土)、21日(日)

〔問い合わせ先〕
京都国際マンガミュージアム
☎075-254-7414



その他公開講座

- アセンブリーアワー講演会
- 公開講座ガーデン
など



サテライトスペースkara-S

- ショップ
 - ギャラリー
- 在学生、卒業生の作品が並びます。



活躍する在学生、卒業生の情報を募集しています。

情報をお持ちの方は、広報グループまでお知らせください。

- 京都精華大学 ウェブサイト
https://www.kyoto-seika.ac.jp
- 広報グループ
kouhou@kyoto-seika.ac.jp



News

05



国際文化学部教員 稲賀繁美の退任を記念した講演会を在学生有志が企画し開催

3月11日、「稲賀繁美先生 京都精華大学退任記念 最終講義」が開催されました。企画したのは、国際文化学部の在学生有志たち。比較文学・比較文化、文化交流史など多彩な分野で研究を深め、日本・東アジア・西洋を横断する比較文化の発展に尽力してきた稲賀先生への感謝と敬意を込め、自ら企画・運営を行いました。会場となった明窓館大ホールには、学内外から多くの参加者が集まりました。稲賀先生は2021年に国際文化学部の学部長に着任し、第1期生の入学から今日にいたるまで、学部の礎を築いてこられました。3時間におよぶ最終講義では、学生時代の原体験から最先端の研究内容までが語られ、参加者一人ひとりがその知の軌跡に耳を傾ける時間となりました。

News

06



芸術学部映像専攻の4年生が制作した大学プロモーション動画が完成、公開

2025年2月に本学の新しいプロモーションビデオを制作・公開しました。本動画は、芸術学部映像専攻4年生2名が中心となって制作。5学部すべての特色ある授業や学生たちの様子、キャンパス風景を丹念に撮影し、本学の魅力を表現しています。制作チームは2024年春より広報グループと企画・打ち合わせを開始し、各学部の授業風景を撮影。学生たちは自身の授業や創作活動と並行し、撮影・編集作業に取り組んできました。完成したプロモーション動画は、大学公式Webサイトやオープンキャンパスなどのイベントで活用し、主に受験生に向けて大学の魅力を発信していきます。

公開動画「京都精華大学紹介ムービー2025」



News

03



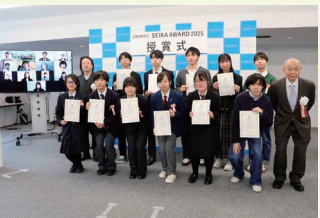
2024年度学長表彰受賞者決定、表彰式を举行

「京都精華大学学長表彰」は、本学の教職員・学生および卒業生を対象に、学術・芸術・社会活動などを通して京都精華大学の名誉を高め、本学の活性化につながる功績を修めた方や団体を学長が表彰するものです。2024年度学長表彰には、地域社会への貢献活動、芸術分野での卓越した作品発表など、多岐にわたる分野から多数の推薦が寄せられ、以下の3名に賞が贈られました。

- 〔学長賞〕
鳥羽美花(芸術学部テキスタイル専攻 教員)
- 〔卒業生功労賞〕
山口馬木也(美術学部造形学科洋画専門分野 卒業)
高瀬裕介(芸術学部デザイン学科映像専門分野 卒業)

News

04



高校生のための創作作品コンペティション「SEIKA AWARD 2025」開催

高校生の自由な創作活動を応援することと新しい才能の発見を目的とした、本学主催のコンペティション「SEIKA AWARD 2025」を開催しました。第6回となる今回のテーマは、前年度に引き続き「世界」。全国から1,011点もの力作が集まり、未来の表現者たちの豊かな才能が花開きました。3月15日～3月23日に行われた入選作品展では、個性豊かないきいきと表現された作品が並び、来場者の心を掴みました。3月16日には対面とオンラインで授賞式を実施。受賞者たちの創作にける意欲が語られ、未来への希望が感じられる式典となりました。SEIKA AWARDは、これからも高校生の表現を支援し、来年はテーマを新たに「記憶」として、作品を募集します。

News

01



学生が考案したZ世代向けの園芸企画が続々登場

デザイン学部プロダクトデザイン学科では、タキイ種苗株式会社との連携事業「種まく×未来」プロジェクトに取り組んでいます。若い世代に“園芸の魅力を伝える”ことを目的として、3年生の実習授業にて、学生たちが自分たち世代に向けたアイデアを立案し、そのなかから実際に企画が採用され、タキイ種苗より実現化されました。今年1月には、第1弾企画となるWEBコンテンツ「性格診断 あなたの性格はどんな野菜と似ている?」を公開しました。さらに4月には、ボードゲーム「farmer life ふぁーまー らいふ」を発売。5月には、120種類の植物イラスト「葉葉日和」のてぬぐいを製品化。今年はタキイ種苗通販事業120周年となることにちなみ、学生が考案したさまざまなアイテムが制作される予定です。

News

02



対話でつながる新たな取り組み「学生モニター制度」を開始

6月10日に本学の明窓館iC-Cubeにて「学生モニター制度」意見交流会が行われました。「学生モニター制度」とは、学生と教職員が直接対話して、大学をより良くしていくために始まった新しい制度です。第1回となる今回は、学部の2年生から4年生までの16名の学生と、11名の教員、4名の職員が参加。「教員からの効果的なフィードバックとは?」「多様な人が過ごしやすいキャンパス環境の条件とは?」「こうだったらいいな、学生支援」などのテーマで活発に意見が交わされました。学生たちからは「学食のメニューをもっと充実させてほしい」「リラックスして教職員と学生が話せる場があるといい」などの具体的な要望やアイデアが多数聞かれ、充実した意見交換の機会となりました。

～ご支援くださる皆様へ～ (ご寄付のお願い)

本学で学ぶ多くの学生の生活支援、本学のさらなる教育・研究活動の充実のため、温かいご支援・ご協力を心よりお願い申し上げます。

● 寄付募集Webサイト

クレジットカード決済、コンビニ決済、インターネットバンキング決済など、ご希望の方法をご利用いただけます。



● リサイクル募金Webサイト(きしゃぼん)

本やDVDに加え、貴金属などの換金査定額がご寄付となります。

● 京都市ふるさと納税を通じたご支援

「『大学のまち京都・学生のまち京都』の推進～市内大学と協働! 学生さんの挑戦を応援!～」をお選びいただき、応援したい大学に京都精華大学をご指定ください。ふるさと納税の寄付金の一部が本学の教育・研究活動の費用に充てられます。

2024年度は、法人・個人あわせて33,240,676円のご寄付をいただきました。加えて、リサイクル募金は276,954円分をお寄せいただきました。心より感謝申し上げます。2025年度も、本学のめざす「表現で世界を変える」教育・研究活動のために、ぜひみなさまにお力添えいただければ幸いです。ご支援・ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

お問い合わせ

京都精華大学 経営企画グループ 寄付募集担当

E-mail: donation@kyoto-seika.ac.jp

TEL 075-702-5201

FAX 075-702-5391

京都精華大学

国際文化学部

人文学科
グローバルスタディーズ学科

メディア表現学部

メディア表現学科

芸術学部

造形学科

デザイン学部

イラスト学科
ビジュアルデザイン学科
プロダクトデザイン学科
建築学科

マンガ学部

マンガ学科
アニメーション学科

人間環境デザインプログラム

人文学部

総合人文学科

ポピュラーカルチャー学部

ポピュラーカルチャー学科

大学院

芸術研究科
デザイン研究科
マンガ研究科
人文学研究科

表紙の作品

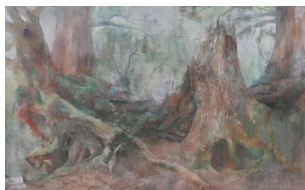
『静けさのなかに』

2024年度 卒業制作

北村 友海さん(芸術学部 日本画専攻)

素 材 : 高知麻紙、水干絵具、岩絵具、楮

サイズ : 2273mm×5454mm



何千年と強く根を張り生きている木は、倒れてしまった後も森の栄養分となり生き続けます。大量の雨に海や川、落ち葉や小枝、すべてが屋久島をつくっているのだとひしひしと感じました。私は何千万年かけた命の循環によって今の屋久島に出会うことができたのです。この卒業作品には体内に溜め込んだ屋久島の偉大なエネルギーをすべて注ぎました。

木野通信

KINO PRESS.

木野通信 第84号

2025年7月30日 発行

京都精華大学 広報グループ

〒606-8588 京都市左京区岩倉木野町137

『木野通信』送付先の変更について

ご住所等の変更を希望される方は、木野会ホームページまたはFAXで変更事項をご連絡ください。

学校法人京都精華大学

経営企画グループ 木野会事務局

<https://seikajin.com>

E-mail: kinokai@kyoto-seika.ac.jp

FAX 075-702-5391

